実践報告

国際教養・教育センターの国際交流活動への取り組み

― コロナ禍における2021年度の活動報告 ―

Approach to International Exchange Activities of the Center for International and Liberal Arts Education

― 2021 Activity report during the COVID-19 crisis ―

経済経営学部現代経営学科
片上　摩紀
KATAKAMI, Maki
Department of Contemporary Business
Faculty of Economics and Business Administration

要旨：本学は，地域・地域の教育機関と連携した国際交流活動を多く実施してきた。イベントで，留学生が活躍し，自文化を見つめ直し，紹介することを通して，コミュニケーション能力の向上，地域とヨコのつながりの構築をはかってきた。しかし，2020年度，新型コロナウイルスの影響で多くの活動が中止になった。そこで，コロナ禍の2021年度の国際交流活動はコロナ前とどのように変化し，実施されたのかまとめ，課題や効果を検討した。その結果，コロナを経て，オンラインを活用した新たな交流活動が増加し，対面の交流活動の内容の見直しがはかられていることが分かった。
キーワード：国際交流，異文化理解，留学生，地域社会，オンライン

１．はじめに

本学の国際交流活動は，国際教養・教育センターが担当し，留学生への文化体験活動の提供だけではなく，留学生が母国の言葉や文化を紹介する活動を通して，地域とのヨコのつながりを構築すること，学内の日本人学生と留学生の交流が活発化することを目指している。そのために，国際教養・教育センターでは、「地域と連携した国際交流活動」「教育機関と連携した国際交流活動」「学内の国際化を推進する交流活動」という３種類の国際交流活動を行っている。

しかし，新型コロナウイルスの影響により2020年度は地域と連携した交流活動を中心とするほぼ全ての交流活動が中止となり，学内外で交流する機会が減ってしまった。2021年度になり徐々に国際交流活動やイベントも再開され始めた。

本稿では，2021年度に実施された国際交流活動の取り組み内容を振り返り，学生が実施後に書く報告書をもとに，課題や効果を考察し，コロナ前の国際交流活動との変化を検討する。

２．留学生の国際交流活動

２．１　留学生数・国籍

本学は，３学部５学科で成り立っており，学部，留学生別科で外国人留学生の受け入れを実施している。2013年度より本格的に留学生の受け入れを開始し，2021年度は５月時点で，別科・学部合わせて，272名の留学生を受け入れている。

留学生の出身国としては，ベトナム，中国が多く，タイ，韓国，インドネシア，台湾，ニュージーランド，ケニア，ネパール，モンゴル，フィジー，オーストラリア，ブラジル出身留学生もいる。本学には，アジア圏出身の学生が多く在籍している。

２．２　留学生の国際交流活動

本学が実施する国際交流活動としては，赤磐市，倉敷市，早島町，奈義町など地域と連携した国際交流活動，小学校や高等学校など教育機関と連携した国際交流活動，学内の国際化をはかる国際交流活動の主に３種類の活動を実施してきた。３，４年生になるとインターンシップや就職活動，他の学科イベントに参加す

る傾向にあるため，国際交流活動に参加する学生の多くは１，２年生である。日本人との交流を通して，日本人の文化や生活の理解，人間関係の構築，コミュニケーション力の向上をねらいとしている学生が多い。

しかし，新型コロナウイルスの影響により，さまざまな教育活動や行事が例年通りに進まず，国際交流活動も例外ではなかったため，2020年度の活動はほとんど実施することができなかった。2021年度も新型コロナウイルスの影響は未だ大きく，withコロナでの国際交流活動をどのように進めていく必要があるかが大きな課題となっていた。

２．３　2021年度の国際交流活動のねらい

2021年度の国際交流活動のねらいは下記の通りである。

① コロナ禍における新たな国際交流活動の形を模索する。

② 留学生の日本文化体験のみならず，日本人と留学生が人間関係を構築できる交流活動を実施する。

2020年度に地域での国際交流活動がほとんど実施できなかったため，地域との連携を再度深め，外部とのつながりだけではなく，学内の国際化もはかることをねらいとした。

３．2021年度の国際交流活動内容

３．１　地域との連携

2021年度は，岡山県内の早島町，倉敷市（倉敷国際ふれあい広場実行委員会），奈義町（Nagi国際交流ネットワーク）と連携をとり，国際交流を実施した。ここでは，活動の概要，当日の様子や学生が記述した報告書から考えられる活動の効果を述べる。

３．１．１　早島町との連携

早島町は，「早島町学校教育ビジョン」が推進され，各教育機関同士のつながりだけではなく，地域とのつながりを重視した教育活動を行っている。早島町教育委員会（2020）でも，目指す子ども像として，「高い志を持ち，世界でも活躍できる子ども」を挙げている。

そのため，「さまざまな国の文化の理解」「留学生との交流を通して，コミュニケーション力を育成すること」を目的に活動を実施した。

（１）留学生クイズ＆トーク

早島町の留学生クイズ&トークは，これまで行われてきた「お話会」に代わり，留学生の母国の紹介やクイズを通して，子どもたちに日本と世界の違いを知ってもらうことを目的に実施したイベントである。本来年２回実施予定だったが，新型コロナウイルスの影響により１回のみ実施した。

・実施日時　2021年７月25日　10：30～11：30
・実施場所　早島町ゆるびの舎
・内　　容　留学生の異文化・言葉紹介
（中国・台湾・ベトナム）
異文化クイズ

本イベントでは，台湾の竹トンボ工作，中国の伝統衣装を身にまとった本学学生からの文化紹介，ベトナム料理の発音講座など多方面から異文化についてしってもらう機会となった。当日の子どもたちも聞きなれない言葉をノートにメモするなど興味を持ち，積極的に学ぶ姿勢が見受けられた。

学生の報告書[1)]には，「ゲームをする時に自分の説明がちょっと下手だったが，当日先生や他の学生たちが子供たちに教えてくれたから，子供や親たちも楽しそうに見えたので，よかった。」と書かれてあることから，学生にとって相手に伝えるにはどうすべきか自分の日本語を振り返る機会となったようだ。

（２）世界を見ようDay

今年度初めて実施した体験型イベントで，留学生の国の言葉の学習，ゲーム，もの作り，民族衣装紹介など異文化体験を通して，国際理解の楽しさを知ってもらうことを目的とした。

・実施日時　2021年８月３日　10：00～12：00
・実施場所　早島町立公民館
・内　　容　国ごとに下記の体験型ブースを作り，小学生がスタンプラリーカードを持って，各ブースを回る。
①タイ：タイ語体験・ゲーム
②ケニア：動物紹介・走り方レッスン
③中国：中国の折り紙
④台湾：竹とんぼ作り
⑤ネパール：ネパールの文化紹介
⑥ベトナム：ボードゲーム
ベトナム語レッスン
民族衣装紹介

当日は，母国紹介クイズやゲームに挑戦したり，留学生の発音を聞きながら繰り返したり，外国語で名前を書いてみたりするなど，小学生が体験活動を通して，楽しみながら日本以外の国の文化にふれていた。

また，留学生の中には，（１）のイベントにも参加した学生がおり，「教える時に子供たちと喋ったり，一緒に竹とんぼで遊んだりするとき，前の活動から学んだ教え方を活用して，自信を持って，上手くできたと思う。」と述べていた。このように，複数回参加した学生は着実に自分の説明を修正し，成功した体験をすることで，自分の日本語力に自信を持つきっかけになったと感じる。

（３）早島花ござピンポン世界大会

2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止になった大会が2021年度は規模を縮小して開催された。2021年度は当日「早島ショップ」にはベトナムの学生が，選手として，中国，ベトナム，日本の学生が参加した。また，ベトナムの留学生２名が実行委員として参加し，事前の会議にもすべて参加し，早島町と連携して準備し，当日も大会運営を担っていた。

・スケジュール

2021年７月11日　実行委員会①
2021年９月11日　実行委員会②
2021年11月13日　実行委員会③
2021年11月20日　大会当日

・実施場所　実行委員会：早島町ゆるびの舎
　　大会会場：早島中学校

・内　　容　大会・ショップ運営
　　ベトナムの商品販売
　　選手として大会参加

実行委員会は，早島中学校，倉敷高等学校，倉敷商業高等学校の学生，地域の方で組織され，大会運営，ピンポン教室，早島ショップ，広報・音響の４つの分科会に分かれている。本学実行委員の学生は大会運営，早島ショップの仕事を担うこととなった。大会運営では，司会の英語通訳を行い，早島ショップでは，コロナの感染対策を考えたショップ運営を検討した。

実行委員として参加した２人には非常にいい経験になったようだ。はじめはイベント運営に向けて何をすべきか，他の実行委員とどのように話し合えばいいか大変だったようだが，報告書では，「事前に準備することが多かったが，参加しながら，皆と交流することができたので，大変じゃなかった。」とチームをまとめて準備したことによる達成感を感じ，「経営学部の学生なので，商品を販売するために，学んだ知識を活用して，お客様に提供した。」と大学で学んだ知識を実際に活用する機会に恵まれたことが分かる。

2021年度は日本人学生にも声をかけ，留学生と日本人学生がペアになり試合に参加したが，日本人学生や地域の方々にルールを教えてもらったり，合間に会話をしたりなど普段では得られない経験ができたのではないかと思う。

早島町との交流は地域に密着したもので，老若男女様々な人と交流することができる。そのため，新型コロナウイルスの影響が大きく，例年実施されていた「ロゲイニング」「英会話塾」など中止されたイベント，回数が減少したイベントもあった。次年度は，コロナ禍においてどのような活動をどのような形で提供していくか早島町とより連携する必要がある。

３．１．２　奈義町との連携

Nagi国際交流ネットワーク主催の「異文化交流日帰りキャンプ」は外国人講師として2021年度初めて派遣されることになった交流活動である。このイベントは，「子どもたちが様々な言語を用いて，外国人や仲

間と協働して体験活動を行うことで表現力やコミュニケーション能力，自ら考えて行動する力，チャレンジ精神を身につけること」「体験を通じて文化の違いに触れることで異文化への興味，関心を育てること」を目的として実施された。

・実施日時　2021年８月２日　９：30～16：30
・実施場所　那岐山麓山の駅いろり家
・スケジュール
　９：30　集合・事前打ち合わせ
　10：00　自己紹介・アイスブレイク
　10：30　野外での多言語クイズラリー
　12：15　昼食
　14：00　子どもからのインタビュー
　15：00　異文化紹介・異文化クイズ
　15：50　振り返り
　16：30　終了

報告書では，「奈義町は本当にきれいな場所だし，涼しいので楽しい時間を過ごした。ハイキングにおけて，日本の文化を勉強できるだけではなくて，日本語で他の国から来た人と喋れた。今回のイベントのおかげで，たくさん友達ができて，日本語学習の大切さを理解できた。」と述べられていた。本活動は本学以外の留学生、地域に暮らす外国人も講師として参加していたので，日本の自然の美しさに触れつつ，様々な地域の外国人と人間関係を構築する良いきっかけとなったようだ。

３．１．３　倉敷国際ふれあい広場実行委員会との連携

倉敷国際ふれあい広場は，倉敷市が毎年10月に開催している大規模なイベントで，日本人市民と外国人市民の相互交流の機会を提供し，地域の国際化を推進している。2020年度は，新型コロナウイルスの影響で，中止となったが，2021年度はオンラインで開催されることになった。

・実施日時　2021年10月17日　10：00～15：00配信
・実施方法　YouTubeライブ及びZoom
・スケジュール
　10：00　オープニング
　10：15　パフォーマンス
　11：30　料理教室
　　（本学の学生がワンタンのレシピ紹介）
　12：45　多言語で遊ぼう
　13：00　オンライン交流会
　　（留学生の生活についてディスカッション）
　14：00　各国のお土産紹介（留学生も参加）
　14：30　閉会
　※異文化紹介をオンデマンド配信

本学の留学生は，「料理教室」「オンライン交流会」「お土産紹介」「異文化紹介（オンデマンド）」を担当することになった。

オンライン交流会でパネリストとして参加した学生は，自分も参加者も慣れないオンラインの場で自分の文化や日本に来て気づいたことを紹介して，司会役として幅広い地域の方に話を聞く役割を担っていた。報告書では，「たくさんお年寄りの参加者がいたので，最初は非常に緊張していたが，自分の国の文化を紹介した後は，だんだん自信がついてきて，結構うまくできた。」と述べていた。例年とは異なるオンライン開催という形態ではあったが，役割を果たすことで達成感を感じることができていたようだ。

３．２　他の教育機関との連携

３．２．１　小学校との交流

小学校の国際理解の授業の一環で，例年小学校を訪問し，異文化や海外の遊びを紹介している。2020年度は新型コロナウイルスの影響で実施できなかったが，2021年度は下記の小学校２校で各校２回ずつの４回の国際交流活動を実施した。

・岡山市立幡多小学校（オンライン）
　１回目・２回目：互いの文化紹介
・赤磐市立山陽小学校（対面）
　１回目：子どもたちからの文化紹介
　　インタビュー
　２回目：子どもたちからの日本の遊びの紹介
　　留学生の国の遊びの紹介

留学生は日本の小学校を見る機会はないため，貴重な機会となったようだった。オンラインで交流した学生からは，「オンラインで交流会を開催すると，

ちょっと小学生たちと距離感があると思う。」というコメントがあった。貴重な機会と考えつつも，オンラインでの実施に難しさと戸惑いを感じているようだった。

３．２．２　高校との交流

コロナ禍において，オンライン交流イベントが活発になったことから，新たに下記の高校からオンライン交流イベントの実施依頼を受けた。主に，異文化理解，を実施目的としている。

・岡山市立岡山後楽館高等学校（オンライン）
　１時間程度のオンライン国際交流を４回実施
　決まったテーマで日本語でのグループディスカッション実施
・岡山県立岡山南高等学校（オンライン）
　１時間程度のオンライン英語交流会を１回実施
　英語でのインタビューやディスカッション

オンラインで自由度の高いディスカッションということで，留学生も初めは時間が余ったときにどうするか，画面共有などのツールの練習など不安があったようだが，回数を重ねるごとに慣れてきて，最終的には「自由な会話の時間が少なく感じた。」など時間が足りなかったという学生もおり，コミュニケーションをとる楽しさを感じられたのではないかと思う。また，新型コロナウイルスの影響で日本に入国できない学生も参加できる活動であるため，彼らが授業以外で日本語を使用する良い機会となった。

３．２．３　海外との交流

オンライン交流会が活発化したことから，下記の大学と交流活動を実施した。

・IPU New Zealand
　ニュージーランドに入国できていない日本人学生や現地で学ぶ日本語学習者との交流
・広東外語外貿大学
　日本語・日本文化を学ぶ中国人学習者との交流

片上・細井（2021）からも，日本に住む留学生，日本人学生，現地で学ぶ学生両者ともに好意的に受け入れられていることが分かる。

３．３　学内の国際化

学内の日本人学生，留学生が共修を進め，良好な人間関係を構築すること，イベントを企画運営できる学生を育成することを目的として，下記の通り学生を主体とした国際交流イベントを実施した。

（１）フットサル大会
実施日　2021年12月12日
会　場　環太平洋大学　サッカー・ラグビー場
内　容　留学生，日本人学生，教員混合のフットサル大会

（２）クリスマスパーティー
実施日　2021年12月21日
会　場　環太平洋大学　ハーモニー２階
内　容　日本の遊び体験，ケーキを食べるなど

（３）留学生による英会話講座
実　施　週１回
会　場　環太平洋大学　教室
内　容　活動やゲームを通した英語活動

コロナ禍のため，飲食に制限はあったものの，制約がある中で，飲食無しでどうすれば誰もが楽しめるかと運営学生が考え，話し合うことは，新たなアイデアを出す良い経験になったと感じる。また，日本人の友人ができたという学生もおり，国を超えた人間関係構築に効果があった。

４．2019年度の国際交流活動との比較

田村（2020）に示されたコロナ前の2019年度の国際交流活動と比較すると，実施していない活動，実施形態が変わった活動がある。地域と連携した交流活動に関しては，早島町で老若男女問わずチームを作って活動する「ロゲイニング」，矢掛町と連携して実施していた「ベトナムフェスティバル」，赤磐市と連携して実施した「ブドウ収獲・農業体験」「是里村運動会」，その他地域の祭りは中止となり実施されていない。これは大人数が密に集まる可能性があった，実施予定の時期に緊急事態宣言が発令されていた，飲食が含まれるイベントであったことが理由として挙げられる。学内の国際交流として実施されていた「新入生歓迎会」「旧正月パーティー」等も大人数が集まりすぎること，

飲食が伴うと言う理由で実施を断念している。

その一方，コロナ前と違うスタイルで実施したり，新たに実施を決定した国際交流活動もある。小学校や高等学校との国際交流，倉敷国際ふれあい広場がオンライン開催となったこと，新たに海外の大学との交流が開始したことである。オンラインでの実施は，2021年度未入国だった学生も参加することができたり，授業後の時間に気軽に活動に参加できたりとメリットも大きい。ただし，デバイスやネット環境の問題，「距離が遠く感じるから対面のほうがいい。」という意見もあるため，オンラインだからこそできる活動は何か，コロナ後の対面での活動に向けて，オンラインからどのようにつなげていくか検討する必要がある。

５．おわりに

本稿では，2021年度に国際教養・教育センターで実施された国際交流活動の内容，その実施の効果や課題点についてまとめた。新型コロナウイルスの影響で一度はほぼ全てが中止になったかのように見えた交流活動の依頼をもう一度頂けることは，本学の国際交流活動が少しずつ理解され，必要とされていることを示すのではないかと考える。

2021年度は，これまでに比べ，オンラインでの開催が目立ち，海外との国際交流活動も開始した。また，運営の学生スタッフも感染防止策をとったうえで，いかに全員を楽しませるか，物理的距離は密にならずに交流する新たな形は何か考える良い経験になった。

今後も，地域との連携を強くし，コロナ禍，コロナ後の活動，実施方法のあり方を模索し，学内外の国際化に努めていきたい。

（注１）記述内容の日本語の誤りは，回答者の意図を変えないよう正しく記述し直している。

参考文献

早島町教育委員会（2020）『早島町学校教育ビジョンの推進』早島町教育委員会

倉敷市 倉敷国際ふれあい広場2021 https://www.city.kurashiki.okayama.jp/38045.htm（2022年12月２日閲覧）

片上摩紀・細井駿吾（2022）「オンライン交流会を通じた学生の気づき－日本と中国の大学による実践をもとに－」『環太平洋大学研究紀要』20号，pp.141-146

田村綾子（2020）「国際センターの国際交流活動への取り組み－2019年度　国際交流推進室の活動報告－」『環太平洋大学紀要』17号，pp.165-176